

ふかまちのまじ

第三号 〇五年〇九月一日
発行元 深町町内連合会
連絡所 六三三八八二

町内会連合会活動報告

町内会連合会会長 高崎修

盆行事 (八月十五日)

今年も恒例の盆行事を実施しました。
朝八時の準備の時には晴れていたが、太鼓踊りの町内巡行中から雨になり、一時は屋内運動場での実施を予定しましたが、天候の回復により、校庭で実施することが出来ました。
本年は八人の新仏に黙禱の後、太鼓踊り、獅子舞に続き盆踊りに入りました。三五年間使用させて戴いた乗兼アヤ子さんのテープに代わって、西本一二三氏が口説き、綱掛義政、乗兼利行の両氏がやしを入れて盛り上げて戴きました。
ビンゴゲームには、三〇〇人の参加がありましたが、景品は一〇〇として高額な品物となりました。
深町の伝統行事を益々盛大なものとするため、多数のご参加を願っています。

深小だより

深幼稚園 大越 由貴子

はじめまして、わたしは、大越由貴子と申します。四月から深幼稚園で勤務しています。四月には初めて深町に来たときには分からないことばかりで戸惑うこともあったのですが、地域の方々や、先生方、保護者の皆様にたくさんのお話を教えていただいたことで少しずつ戸惑いもなくなってきました。



そんな私ですが、深幼稚園に勤務してからの毎日は、驚きの連続でした。中でも一番印象的だったのが、挨拶です。深町の方々は子どもたちの姿を見かけると、気軽に声をかけてくださり、子どもたちも、自分たちから挨拶をしようとしている姿があつたからです。その姿を見て、地域とのつながりの強さを感じました。
たくさんの方々に見守られて子どもたちは毎日のびのびと育っていると感じています。私も、子どもたちに負けないよう日々成長していけるよう頑張りたいと思いますので、これからよろしくお願いいたします。



第三〇回三原やっさ祭り 深町チーム八位入賞

サンライズ大池と深町町内会連合会との合同チーム約九十人でやっさ踊りに出場し、延べ九三チーム(七〇〇人)中、みごと八位に入賞しました。
来年は更に上位入賞を目指して! みんなで楽しく踊りましょう。
(編集室)

おめでとうございます (百歳) 上勢

深町最高長寿者 谷岡恒子さん(中組仲味講)

※ 三原市内の百歳以上の人 45名 (男2名、女43名) (平成17年7月末現在)



第五四回市美術展 林宗聰さん入賞



中組千川講の林宗聰さんは市美展洋画部門で奨励賞を受賞されました。
おめでとうございます。
(編集室)

町民会館運営委員会報告 有線放送設備の移設

深町町民会館 館長 秋本 賢治

旧JA深町支所に設置してあった有線放送設備を、深町町民会館の西側階段の上がり口付近に移設しました。

女性会だより

女性会長 亀谷 庸子

深町女性会三九人のメンバーで今年も楽しい活動を行っています。
〇ごきぶりだんご作り
〇日帰り旅行
〇リサイクルバザー
〇無水鍋料理講習等
前半は終わりましたが、後半は
〇お月見茶会
〇クリンデー
〇料理教室
〇新年会
〇テールブルマナー等
多彩な催しを企画しています。
その他、若い人のグループ「ぷりてい・ウーマン」、熟年のグループ「たのしもう会」等でもいろいろ企画して活動しています。
まだメンバーに入っていない方、どうぞ気軽に、見学に来てみて下さい。連絡先は亀谷まで。6316106です。

子ども会だより

子ども会会長 小川和彦

町内の皆様には、平素より子ども会活動に格別のご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。
さて、今年も、七月二四日、みなみ海水浴場において、海水浴を行いました。子ども四七名、保護者四名の参加をいただき、波打ちぎわには、子ども達の歓声がびびき渡り、楽しい海の一日を過ごしました。



又、保護者の皆様には、当日監視当番をお願いし、大きな事故、けがもなく、無事終えることができました。ご協力ありがとうございました。
これからの子ども会行事につきましても、役員一同、一致団結して活動していきますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。

糞の処理を!!

匿名



最近、中組の県道の歩道に動物の糞が見られます。
犬の糞とはつきり断定はできませんが、散歩者は十分な注意をお願いします。

謹んでお悔やみ申し上げます

高平優悟様 三歳 (下組五班) 七月三十日

頼兼君枝様 八五歳 (中組千川講) 八月十一日

石井晴男様 九一歳 (上組辰巳講) 八月十二日

深町各種団体九月行事予定

◆町内会連合会	敬老会 (十一時)	十九日
◆敬老会	未定	未定
◆体育委員会	未定	未定
◆小学校・幼稚園	未定	未定
◆始業式	未定	未定
◆学区児童会	未定	未定
◆参観日・おじいちゃん・おばあちゃん参観日	〇	二日
◆避難訓練・集金日	〇	六日
◆PTA役員委員会	〇	八日
◆PTA役員委員会	〇	九日
◆びよびよハウス	〇	十五日
◆修学旅行	〇	十六日
◆お楽しみ会	〇	二十日
◆社会見学	〇	三十日
◆女性会	〇	三十日
◆親睦会	〇	二日
◆如水館中学・高校	〇	八日
◆始業式	〇	一日

展望席

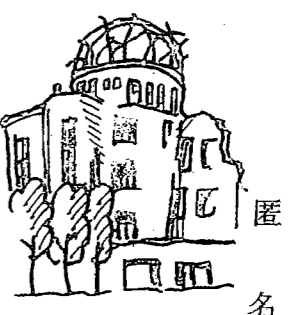
厚生労働省が公表した二〇〇四年簡易生命表によると、日本人女性二〇年連続長寿世界一、男性も世界第二位。深町でも長寿の方が年々増えているようです。中組の谷岡恒子さんは今年一〇〇歳を迎えられました。誠に喜ばしいことと思います。

最近、「ふかまちのまじ」に、石井良雄さん、幸谷益雄さんや匿名の長寿の方から貴重なお話を寄せて頂いています。日本の歴史認識について、様々な問題が論じられていますが、長寿の方のお話をよく聞いてみると、自ずと歴史の真実も見えてきて、そこから新たな展望も開けて来るような気が致します。

お年寄りの顔の皺には貴重な経験や知恵の宝物が刻み込まれ詰まっていると思います。その宝物をみんな分けて頂きたいものです。人生の大先輩であるお年寄りから学ばなければならぬ。今、マスコミがやたらと騒いでいる元横網の若・貴の見苦しい争い。人生の大先輩、真の人生の横綱を見つけて、その門を叩いてみたら、元の仲の良い兄弟に戻るのかもしれない。

お年寄りが元気で輝いておられることが、若い者の人生に希望と勇気を与えてくれます。「笑う顔には福来る」と誰かがいつか言いました。お年寄りの方々は、ストレスを溜めずに、いつもみんなよく笑い、よくしゃべって、後輩をよく指導し、人生のよき道しるべとなっていて頂きたいと思えます。

私の被爆体験(2)



弁当を作ってもらっていたので、今度は歩いて広島へ出て行った。その時はもう夕暮れだった。横川はだいたい燃えていた。横川に出てみたら、横川は丸焼け、横川から宇品まで皆見えた。所々にコンクリの家が見えるのは銀行の金庫だった。その日は、宇品の糧秣廠に泊まった。その頃は自分の家や家族のことは少しも頭になかった。糧秣廠のみんなのことばかりが気がかりだった。みんな家に帰ろうとしない。いつも一緒に働いている人間が恋しいのだから。三日目くらいに、やっとみんな自分の家の方へ帰った。私は、あくる日目が覚めて、初めて家族のことを思い出した。帰ってみると、家は形も無かった。妻と私の姉は広島市内の菓子屋に勤務していた。そこへ行ってみたら、きれいに燃えていた。このくらい燃えとつたら、どうせ骨も分らんくらい焼けているだろうと諦めかけたが、それでもその姿が見えないと諦められなかった。

健康について(4)

上組 石井良雄 口述
下組 秋永良子 聞き取り

四、腰骨を立てて下さい
正座の時は腰骨をちゃんとたてて座りますね。あの姿は実に美しい。
ところが腰骨が曲がるとどうもよくないですね。特におじいさんやお婆さんは腰が曲がってしまうとつえをついても手押し車につかまっても余り美しい景色ではありませぬ。座ぶとんの上にも正座する時も机について本を読む時も歩く時もバスへ乗った時も電車へ乗った時もいつも腰骨をたてて下さい。そうすると貴女は一段と美しく見えますよ。



五、長寿の里
百才以上の人が十人、九十才以上の人が三十人、八十才以上の人が四十人というようになると素晴らしいですね。そうなるとうなる深町に住みたがるようになりますでしょうか。

あくる日から弁当を持って、ぐるぐる市内を歩き回った。途中、高校生くらいの子が、目が見えなくなっているし、「わしはどこのだれだれじゃ」と「ここへ連絡してくれ」と言われたこともあった。
二日目も、また弁当を持って歩き回って、もう飯も食べるところじゃあなかった。晩まで歩き回ってまた糧秣廠へ帰った。三日目に、もう一遍回ったが、足は棒になるし、もう諦めて帰ろうと思つて帰りかけたが、虫のしらせか、もう一回自分の家に行つてみようと思つて、その方向へ歩いた。すると、夕方五時頃、西の方から妻と姉によく似た者が二人くるので、生きているはずがないのに、幽霊かと思えず、近づいてまともに会つて見ると本人に間違いない。私から出た言葉は「おみやらどこへおつたんにや」。よう生きたのー。だった。

腰の曲がったお婆ちゃん、足の曲がったお爺ちゃん、どうぞ治してください。ナショナルカラー電気器具がいろいろ売られています。そんなものを求めて孫さんにも毎日十分か二十分やつてもらつたらいいですね。そして毎朝ラジオ体操をして下さい。ラジオを縁へ持ち出して自分の家でできますから時間は毎朝六時三十分から十分間です。やさしく説明してくれませんか。一週間も続けられたら誰でもできるようになるでしょう。



次に例えば、草むしりのような仕事は三十分したら二十分休けいする。そして今度は立ってする仕事に変える。しゃがんで一時間も二時間もしてると腰は曲がってしまうでしょう。そして毎日二十分から三十分くらい自動車のあまり通らない道を歩きましょう。上中下どの組にも歩くのによい道があるでしょう。

これは余談ですが、よそから深町へお嫁に来られた方は一度城山に登つてみて下さい。下組が半分くらいしか見えませんが、全体がよく見えていいですよ。深小学校の前から音石の下まで一キロ(千米)です。私が巻尺で計つたのだからまちがいはありません。それで大体見当がつくといいです。小学校からお宮迄が1キロくらいでしょう。それから村境の橋迄一キロくらいでしょう。でも一キロ歩きなさいというのではありません。二百米でも三百米でもいいのですよ。続けて休まず歩きましょう。
(次号へつづく)

妻の話によると、「原爆の落ちた日は、最初菓子屋の二階へいたが、一階へ降りて来いと言われて一階へ降りた。そこには菓子屋を焼く大きな釜があつて、釜の所へ居たため、壊れた柱等がその釜の上に倒れ、釜が自分を防護する形になつた。そのときは、真つ暗だつたがしばらくしてポーと風が来て、煙がなくなつて明るくなり、姉と一緒に外へ出られた。私と姉と社長と社員一名の計四名が、不思議なことに怪我一つ無く助かつた。それから四人は飛行場を南に下り、電車道を北へ上がつて山本村にある社長の身内の家へ行つた。四人が一緒にいたので安心していた。しばらくは家族のことは何も思わなかつた。そして三日目になつて、ようやく家族のことを思い出して、自宅へ帰つてみないといけんと思ひ、姉と二人で自宅へ帰つていたところ、自宅へ入る道の四〇〇五〇メートルくらいのところまで貴方を見つけた。」という。

私もいつもなら、原爆が落ちた時刻頃は広島市内を仕事でかけりまわつており、原爆の直爆は免れなかつたはずであり、お互い生きていくはずがないと思つていたので、見かけたときは、お互いにおかしい、幽霊かもしれない、不思議な思ひだつた。
(次号へつづく)

深町に引越して来て

下組 中重 貴江

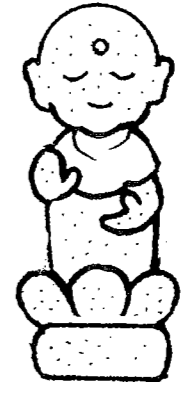
我が家は、深町に引越して来て九年目になります。その間、皆様には大変お世話になり、感謝しております。当時、小学二年生、幼稚園年長、一歳だった三人の息子達も、高校一年生、中学二年生、小学四年生となりました。



子供達が、幼い頃は、よく一緒に山の方や川の方へ散歩に行つていました。春には、土筆を採つたり草花を摘んだりしました。夏には、朝早く、山に虫を探しに出かけ、夜には、螢を見に出かけました。あんなにたくさんのは初めてで、とてもきれいで感動しました。冬には、雪がたくさん降ると、寒さも忘れ、雪だるまを作りました。自然に触れ、楽しく過ごす事が出来ました。それから、散歩の途中には、近所の方々から、声を掛けられて嬉しく思いました。

中組町内会だより

中組町内会長 高崎 修
二十三夜行事(八月二〇日)



町民会館横の地蔵さんのお祭りを町民会館で行いました。途中の雨にもかかわらず、二〇人の参加があり、午後六時から法要、太鼓踊り、獅子舞、盆踊り、くじ引きを行い、夏の最後を楽しみました。ビール、ジュースの飲み物、かき氷、焼きそば、綿菓子、子供のお菓子等も無料提供しました。雨の中、大勢の参加を頂き有難うございました。

短歌・俳句・詩

中組 仲峠謙 竹内博満
孫の背に軽く触りて妻は言う
この撫ぜ肩は私に似てと



佳き人は両手で白き菰子の
花を囲いて香り愛である
夏に夜に
孫の手握りわれを呼び
百足追ひある妻に眠れず

今では、子供達も大きくなり、一緒に散歩する事はほとんどなくなり、それぞれの時間を過ごす様になりました。そんな中、せっかくなら一緒にいられる時間もついつい悪い事のほうばかり目についでいる言つてしまひ、言いつたなど反省する事もよくあります。一緒に散歩に行つていた頃のように、同じ事に対して、感動したり、楽しんでいたり、考えたりできる時間を、大切にしたいと思ひます。ついついこちらの意見を通そうとしてしまひますが、子供達の考えをしっかりと聞いて、一緒に成長していかれたらと思ひます。
最後になりましたが、子供達の通学路の様子は、なかなか見る事ができません。もし、お気付きの事がありましたら、声を掛けていただければと思ひます。これからも、どうぞよろしくお願ひ致します。